

ケーブル技術スタッフの機器チェック!

日々開発されるケーブルテレビ関連機器を、技術スタッフが
厳しい目でチェック! 実用性に焦点を当てて報告します。No.
104

映像録画再生装置 (VTR)

豊島ケーブルネットワーク(株) 技術部 部長 上山裕史
今回はスタジオにおける
映像録画再生装置 (VTR) について紹介します。

私たちケーブルテレビ局の技術者は、ブ
ライマリーIP電話やインターネットなどミッ
ションクリティカルな双方向アプリケーション
に加え、コミュニティチャンネル(コミチャ
ン)放送のためのデジタル放送機器の安
定動作に目を光らせています。

今回はスタジオにおける映像録画再生
装置 (VTR) について紹介します。

スタジオのハイビジョン映像信号は
HD-SDI信号になっています。HDはHigh
Definition高精細の略です。SDIはSerial
Digital Interfaceの略でシリアル・ディジ
タル・インターフェースとなります。

HD-SDI信号を録画再生する装置は
高価なものから安価なものまで多種類が
あります。写真1は安価なほうに分類され
るHD-SDI録画装置です。19インチラック
1U(高さ50mm)に収納できる大きさです。
永続的な録画記録媒体としてSSD(半導
体ドライブ)2台を収納できます。写真1の
左側に2つのSSDのドライブ収納部が見

えます。

写真2にSSDの外観を示します。パソ
コン(PC)周辺装置を活用しているので映
像専用開発された業務用記録媒体より
安価に購入できます。写真1の右側は再
生時の画像が表示されるLCD(液晶表示
部)です。LCDに画像のほか経過時間
が表示されます。中央部の操作ボタンは
再生・録画・早送りなどで、従来のアナ
ログVTRと同じ感覚でボタン操作がで
きます。

写真3はアナログ時代の業務用カセット
テープ式録画再生装置です。この時代と
同じ操作ボタン構成にHD-SDI録画装
置はなっています。アナログVTRはアナ
ログ



写真2:SSD半導体ドライブ

映像信号をアナログ方式でテープに記録
する方式だったため高さが5U(250mm)
必要でした。これに比べHD-SDI録画装
置はデジタル信号をデジタルでSSDに記
録する方式なのでコンパクトになってい
ます。SSDは取り外しが出来るのでPCで
操作する編集ソフトで簡単にファイルとして
出し入れできます。

HS-SDI信号を記録再生したい場面は
数多くあり、この録画再生装置を利用す
れば簡単にコストダウンさせて導入でき
ると思います。



写真1:HD-SDI録画装置



写真3:テープ式アナログ録画再生装置